
目次

- 【01】 お知らせ
 - 南河内地域・河南町コミュニティ通訳ボランティア研修参加者募集
 - 通訳サポーター連絡会議・専門勉強会を開催します！
 - JICA ボランティアの募集
 - JICAグローバル教育コンクール2012応募作品大募集
- 【02】 防災特集
 - 災害時の外国人住民支援について
 - 大阪府の災害時の外国人支援の取組み
 - 高等教育機関留学生担当者防災ワークショップを開催
- 【03】 外国人情報コーナー
 - 在留カードへの切替え
- 【04】 OFIX国際交流員のレポート
 - 初めてのアメリカ

【01】 お知らせ

- 南河内地域・河南町コミュニティ通訳ボランティア研修参加者募集

当財団では地域の外国人の方々が、言葉の障壁を越えて安心して暮らせるように、市役所や学校などでのコミュニケーションの橋渡しをするコミュニティ通訳の養成を行っており、10月は下記の要領で、河南町教育委員会との共催で、研修を開催します。11月からは、とんだばやし国際交流協会での開催を予定しています。

【日程】 10月10日(水) & 10月12日(金) 13:00-16:30

【場所】 河南町役場4階大会議室南

【プログラム概要】

コミュニティ通訳の心構え、教育、在留資格、
通訳トレーニング、ロールプレイ等
(※変更の可能性あり)

【募集締切】

2012年10月3日(水) 必着

(※応募が多数の場合、締切を早める可能性もあります)

その他、参加要件やお申込など、詳しくは
<http://www.ofix.or.jp/news.html#kanan>
をご確認ください。

- 通訳サポーター連絡会議・専門勉強会を開催します！

OFIX主催のコミュニティ通訳研修を受講された方や、既に通訳としてOFIXから依頼を受け外国人支援をされておられる方々を対象にした連絡会議・専門勉強会を10月4日、11月9日、12月4日に予定しています。

通訳の方同士集り情報交換をして、モチベーションアップ、スキルアップをしましょう。参加要件やお申込など、詳しくはhttp://www.ofix.or.jp/news.html#20120919_01をご確認ください。

- JICAボランティアの募集

JICAボランティアとは独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施する事業です。自身の技術や経験を活かして開発途上国の人々と共に生活し、相互理解を図りながら彼らの自助努力を促進させる形で協力活動を行う、1年間または2年間の海外でのボランティアです。

◆ 応募資格

・ 青年海外協力隊、日系社会青年ボランティア

- 20歳から39歳の日本国籍を持つ方
- ・シニア海外ボランティア、日系社会シニア・ボランティア
- 40歳から69歳の日本国籍を持つ方

◆ 募集期間 2012年10月1日（月）から11月5日（月）

◆ お問い合わせ先：
JICA関西 ボランティア担当 TEL 078-261-0352
JICA国際協力推進員（OFIX内） TEL 06-6966-2400
JICAホームページアドレス：<http://www.jica.go.jp>

■ JICA グローバル教育コンクール2012 応募作品大募集

海外で撮った写真・映像や、あなたの国際協力レポートを送って
ください！
学校教育や各種団体での「グローバル教育」を実践する際に、
活用できる作品として応募してみませんか？皆さんが作品を通じて
伝えたいことを、一言添えて応募してください。

- ◆ 募集締切：平成24年10月22日（月）※郵便の場合、当日消印有効
- ◆ 応募部門：「写真・映像」部門/「国際協力レポート」部門
- ◆ 賞：個人賞・団体奨励賞 ※JICA理事長賞は約1週間の海外研修旅行
- ◆ 応募・お問い合わせ先
〒102-0082 東京都千代田区一番町23-3 日本生命一番町ビル5階
（公社） 青年海外協力協会内「グローバル教育コンクール2012」係
電話：03-3556-5926（直通）
※受付時間：月曜日から金曜日（9：30-17：30）
Eメール：global-oubo@joca.or.jp
ホームページアドレス：
http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/global_edu/index.html

【02】防災特集

■ 災害時の外国人住民支援について

（特活）多文化共生マネージャー全国協議会 事務局長 時光

- ◆ 災害時における外国人住民への支援の必要性
（特活）多文化共生マネージャー全国協議会（以下、NPOタブマネ）は、東日本大震災発生後すぐに、多言語による情報提供や電話相談、被災地への職員派遣などを通して、日本語が理解できない外国人住民への情報提供を行うために、「東北地方太平洋沖地震多言語支援センター」を、滋賀県大津市に立ち上げました。多文化共生マネージャー（財）自治体国際化協会認定）が中心となって広域連携によるこのような活動は、2007年に発生した新潟中越沖地震に続き、2度目となりました。
日本に住み、日常生活は日本語で生活している外国人住民でも、地震等の災害時には、「余震」や「避難所」等の災害時特有の言葉は、十分に理解できません。さらには、防災教育を受けていない、在留資格などといった外国人住民特有の問題によって、災害時における外国人住民は地域で孤立しやすく、時には情報を得られないことでパニックに陥ることもあることから、一定の支援が必要です。
東日本大震災発生の翌日、私は、NPOタブマネの同僚と一緒に被災地の仙台に向い、仙台市災害時多言語支援センターで、主に災害対策本部からの情報を多言語で外国人住民に提供する活動に従事しました。あれから、一年半が経過しましたが、自分の中で、「あの活動でよかったのか？」いまだに自問自答しています。被災地で活動に携わった一人として、災害時の外国人住民支援の難しさや地域での取組みについて私見を述べたいと思います。
- ◆ 外国人住民へ情報提供する側として大きな葛藤
皆さんは、今回の震災直後、海外のメディアを見られたことがあるでしょうか。被災状況、特に原発に関して、海外のメディアは日本政府とぜんぜん違う認識をしていました。どちらかという日本列島の半分以上が放射線で汚染されているような報道が多く海外で流れていました。忘れもしないのですが、仙台市の避難所で出会った一人の中国の方に「先ほど海外にいる家族から電話がかかってきましたが、日本政府とぜんぜん違うことを言っています。一体どっちを信じればいいんですか。」と戸惑った顔で率直な疑問をぶつけてきました。

戸惑いを感じたのは、被災地の外国人住民だけではなく、多言語支援センタースタッフの私も同じでした。被災状況について世界各国の認識が分かれている状況の中、私たち情報提供する側としてどの情報を信じ、(翻訳して)外国人住民に発信すればよいか、心の中で大きな葛藤がありました。災害時多言語支援センター内で話し合った結果、日本政府の報道を忠実に訳して情報を発信しようということになりました。ところで、日本政府の情報を多言語で外国人住民向けに発信しても、相手に完全に安心してもらえるだろうかと皮膚感覚で疑問を感じました。災害時において、情報源の確保、情報の正確性は大きな課題です。そんな中で、国境を跨る外国人住民への情報提供は一層難しいことであると現場で感じさせられました。

◆地域の外国人住民は防災の担い手になれます

「災害時の外国人住民支援」という言葉はよく耳にします。言葉通り、地域で社会的少数者の一つのグループである外国人住民を対象とした取組みが少しずつ、確実に前に進んでいるように感じています。この点に関しては、外国人住民として大いに感謝します。一方、言葉が先に走っていて、外国人住民＝災害時要援護者と考えている担当者、関係者、市民ボランティアも少なくありません。確かに防災知識、日本語力に関して言えば、外国人住民は弱い立場にあります。しかし、地域に住む多くの外国人住民は日本生活が長く、日本語はもちろん、若い世代が多く、平常時よりその方たちに防災知識を学んでいただければ災害時に周りの日本人住民を助けられる存在に十分になりえるのではないのでしょうか。

もう一つ注目していただきたいのが、一部の外国人住民に見られる当事者の意識変化です。自分自身の言語能力、経験を活かし、同国人を助けたい、日本社会に貢献したいとの思いを持っている外国人住民が地域で確実に増えています。実際、私どもの団体が中心になって立ち上げ・運営した「東北地方太平洋沖地震多言語支援センター」で設置された電話相談ホットラインを通して、多くの外国人住民からボランティア活動がしたいとの電話をいただきました。外国人住民の意識変化を実感できるうれしいことでした。外国人住民の意識変化は、仙台市の災害時多言語支援センターにおいても同様でした。地域の留学生が自らボランティアに参加し、貴重な戦力として一緒に活動に参加しました。

私どもNPOタブマネ、多文化共生マネージャーが外国人住民を防災の担い手として巻き込み、市主催の防災訓練にただ参加するのではなく、炊き出しを作って配膳する、多言語支援センターのボランティアとして訓練に参加する、さらには外国人住民が自ら避難所を運営する訓練を地域で広げています。外国人住民＝災害時要援護者ではなく、防災の担い手になれるという新たな発想で皆さんのそれぞれの現場において事業展開をしていただければありがたいです。そして、私どもの団体NPOタブマネが引き続き災害時の取組みを進めていきます。

■ OFIXの災害時外国人支援の取組み

東日本大震災発生から、1年半が経ちました。

被害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早く平穏な日々を回復できるようお祈り申し上げます。大阪府でも、9月5日に南海トラフ巨大地震を想定した880万人訓練が実施されました。OFIXでもこの日は携帯電話の緊急地震速報を受け、机の下に避難したり、設置運営している大阪府堺留学生会館オリオン寮の被災確認の連絡を行ったり、地震に備えた行動を確認しました。

実際に災害が発生した場合、被災地として外国人への支援を行うことが求められますが、府内の被害が甚大な場合には、他地域からの支援受入が不可欠になってきます。このため、本年度は地域や外国人府民を対象とした取り組みのほか、関係機関や広域での連携体制の整備を進めるための取り組みにも力を入れています。

<広域連携>

- ・近畿の地域国際化協会間において、災害発生時のスタッフや通訳・翻訳者の派遣の協定を締結しており、災害発生時に多言語支援センターを設置する場合の人材確保のための協力関係を築いています。また、広域災害に備え、近畿以外の全国の各ブロックの地域国際化協会連絡協議会との連携も進めます。

<地域との連携>

- ・市町村や市町村国際交流協会と共催で、地域の外国人市民、通訳ボランティア向けの防災訓練を実施し、災害発生時の安否確認や円滑な避難所運営のための取組みを進めています。

<行政機関等との連携>

- ・大阪府との連携はもちろん、在関西総領事館との防災ワークショップの

実施など、定期的に関係機関と災害に係る意見交換を実施しています。
〈教育機関との連携〉

- ・東日本大震災の被災大学の留学生支援担当者を講師に招いたワークショップ（下記参照）や大学と共催の防災訓練の実施など、留学生の在籍する高等教育機関との連携を進めています。

※10月27日（土）午前、OFIXと大阪市立大学の共催で、大阪府堺留学生会館オリオン寮と大阪市立大学留学生宿舍合同の、留学生向け防災訓練を実施します。オリオン寮での訓練については、府内学校関係者の方の見学が可能です。ご希望の方はOFIXまでお気軽にお問い合わせください。

■ 高等教育機関留学生担当者防災ワークショップを開催

災害時の留学生支援体制を考えるため、府内の高等教育機関留学生担当者にお集まりいただき、東日本大震災時に留学生支援に取り組まれた、福島大学 国際交流センター 特任専門員の マクマイケル・ウィリアム 氏を講師にお招きし、直接、体験談をお聞きし、その後、府内の留学生支援の現状や課題について話し合うワークショップを9月14日（金）大阪府堺留学生会館オリオン寮において開催いたしました。当日は、大学や専修学校の担当者の方々を初め、国際教育関係機関の方、行政や国際交流団体等幅広い分野の方々が集まってくれました。

講師からは、震災当時の体験談を映像を駆使し、大変具体的に分かりやすくお話しいただきました。

『福島大学の留学生数は178名で、国際交流会館（留学生専用宿舎）に50名程度が滞在していたが、震災直後、市内に部屋を借りている留学生も情報を求め会館に集まって来て、雑魚寝状態であった』『その後、放射能を恐れ全員が避難して行ったため、安否確認は人海戦術で留学生178名の確認に2週間も要した』『その際、留学生の民間住宅あつ旋を行っていた大学生協との連携が有効であった』『母国からの指示などで、7割以上の留学生が国外へ避難し、最後は入国管理事務所の出国情報で確認した』など当時の生々しい体験の具体的な話があり、『留学生のPCメールアドレスを登録させる必要がある』『フェイスブックやツイッターが情報発信や収集に有効である』などの経験を踏まえた課題提起もあり、参加者からは大変有意義な話が聞けたと好評でした。後半の意見交換会では、参加者が3グループに分かれ、震災発生後1週間以内にまず対応すべき項目は何かを各自4項目書き出し、それをテーマにグループディスカッションをしてもらい、マクマイケル講師に引き続きアドバイスを願いました。

幅広い分野の方々が参加されていたことから、様々な視点からの意見を聞くことができ、広い視野での意見交換が出来たと好評でした。

OFIXでは、今後ともこのような取組みを続け、留学生を初めとする外国人の受入態勢整備のため関係機関と連携して参りたいと考えていますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

【03】 外国人情報コーナー

■ 在留カードへの切替え

以前のOFIXニュースで外国人登録証明書の有効期限についてご説明しましたが、今回は、中長期在留者が平成24年7月9日以降初めて在留資格の更新や在留資格の変更をする時の手続きの注意点に触れます。次回自分の在留資格の期間を更新する場合や、在留資格を切り替えて、新しく中長期の「在留資格」を取得した場合、現在保有している外国人登録証明書を「在留カード」に切替えすることになります。その際には写真（4×3cm）を用意し、入管に提出する必要があります。ただし、16歳未満の方は、写真は必要ありません。在留カードに見なされる外国人登録証明書は新たな在留カードの交付を受けた後、すぐに法務大臣に返納することになっていますが、希望すれば、カードに穴をあけて返してもらえます。

【大阪府外国人情報コーナー】

Tel : 06-6941-2297

E-mail : jouhou-c@ofix.or.jp

英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、タイ語、
スペイン語、ベトナム語、フィリピン語

開設時間：毎週月から金 午前9時から午後5時30分

■ 初めてのアメリカ

皆さん、こんにちは。大阪府国際交流員のアルビンです。皆さんは夏休みを楽しみましたか。夏休みの時に遊びではなく、出張でアメリカに行きました。今回はアメリカに行った時の話をします。

私は先月まで、アメリカに行ったことがありませんでした。こんなことをアメリカ人に言ったらビックリされます。なぜかという、普通のアメリカ人と同じようにアメリカの文化について話すことができるからです。小さい時からアメリカの文化の中で生きてきたと言っても過言ではありません。テレビ番組の多くはアメリカのテレビ番組でセサミストリート、エレクトリック・カンパニー、バイオニックマンなどが大好きでした。アメリカの映画も多く、フィリピンの映画よりアメリカの映画の方をよく見ていました。そして、その頃は多くのフィリピン人がアメリカに憧れて、移民に行った人も多かったです。移民した親戚も少なくありません。しかし、今回の出張までは、私は行きたいと思ったことはありませんでした。

それで、実際にアメリカへ行ってどうだったのかと言うと、あまり驚きがありませんでした。今まで様々な国に行ってきましたが、アメリカの場合はあまり海外にいるという感じがしませんでした。フィリピン人が多いことも一つの理由でしょう。どこへ行ってもフィリピン人がいました。フィリピン人だけでなく、中国系の人やラテン系の人など色々な民族の人もいました。日本人もたくさんいました。

驚かなかったもう一つの理由と言えば、小さい時から身に付いたアメリカの文化がそのまま残っているからです。家の作りとか、人とのふれあいとかコミュニケーションの仕方など、全部知っていることばかりです。例えば、気軽に人から声をかけられることです。それは2回もありました。1回目は電車の中でアメリカの高校生と日本について話していた時、目の前にいた女性がいきなり「私も日本が大好きです！」と言って会話に入ってきました。もう1回はある店の前で人を待っている時に、近くにいた人（高校生）がいきなり「アルビン！ こんにちは！」と言って来ました。（名札をつけていたので、私の名前が分かったようです。）どうも私が履いていた五本指形状の靴が気になり話しかけて来たようです。そういう感じで全然知らない人と会話するのは不思議なことではありません。私も電車の中で犬を連れて来た人に声をかけ、会話をしました。

アメリカに行って、一番楽しみにしていたのは食事です。特にハンバーガー、ホットドッグ、ピザなどが気になっていました。それはアメリカでは全部が大きいというイメージがありましたから。その通りでした。ピザだって、日本のピザの1.5倍ぐらいの大きさがあります。ポテトフライは2倍の量でした。500円ぐらいのブリートを頼んだ時は、あまりの大きさに食べきれませんでした。アメリカでの食事のおかげで3キロぐらい太りました。

初めてのアメリカはある意味で面白かったです。文化の違いで驚かされたからではなく、私が知っている40年以上前の文化がまだ残っていると分かったからです。文化って面白いですね。皆さんもどこか行ったら、その国の文化（食文化だけではなく）もよく見てください。

■ おおさかグローバル塾短期留学について

今年度からスタートしたおおさかグローバル塾は、米国コースが7月22日から8月4日まで、英国コースが8月19日から8月31日まで、それぞれアメリカ合衆国のサンフランシスコ及びイギリスのロンドンほか数都市において短期留学を実施しました。この短期留学は、4月から始まった留学準備コースにおける準備学習を踏まえ、実践的に現地で学びを体験するもので、各コースに特色あるプログラムが用意されており、生徒たちが最も楽しみにしていたものです。それぞれ約2週間にわたる外国での滞在経験は、生徒たちにとってどれも刺激的で、グローバルに活躍できる人材になりたいという将来の夢に向かい、これから何をすべきか、一歩具体的なイメージを掴みとって帰国しました。ここでは、現地で過ごした短期留学の様子を簡単にご紹介します。

【米国コース】

米国コースは、サンフランシスコ州立大学を拠点として、宿泊は同大学の学生寮で過ごしました。同大学は、アメリカでも5本の指に入ると言われるほど美しいキャンパスが自慢で、そこでグローバル塾生向けに用意された英語学習授業や専門講義を受講したほか、在学生への学内インタビュー、キャンパスツアーなど、学内生活を存分に楽しみました。

米国コースでは、滞在先が合衆国西海岸という地理的特性を生かして、シリコンバレーの先端企業への訪問プログラムが充実しているのも大きな特徴となっています。ネット社会が浸透した今日では誰もが知っているYahoo、twitterの

本社を訪問し、そこで働く日本人社員との意見交換をすることができたほか、検索サイト最大手Google社発祥の地でもあるインキュベート施設Plug and Playを見学し、ネットビジネスが生まれる現場を体感することもできました。ここでは、同施設に入居するsunbridge japan社のCEOでかつて日本オラル社の社長も務められたアレク・マイナー氏による講演が用意されていました。同氏から次代を担う若者に夢を実現するためのアドバイスがあり、生徒たちは大変感激していた様子でした。

サンフランシスコは古くから日系人社会が形成されるなど、歴史的にも日本との結びつきが強く、現在でも在留邦人の多い街であり、米国に開設された日本の在外公館の中で最も歴史が古いサンフランシスコ日本総領事館があります。今回はグローバル塾生の同館への訪問も実現しました。同館管轄区域における政治や地方行政の現状、シリコンバレーの歴史や展望、日系人社会の形成の歴史等、同館に駐在する外交官から直接説明を受け、国益の保護や国際交流のために働く外交官の姿に尊敬のまなざしを注いでいました。

アメリカでは、学生が積極的にボランティアに参加するなど、何らかの形で地域社会に貢献することが期待されています。今回は、実際に留学した時に経験するであろうボランティアワークのプログラムが2日間用意されており、

数人ごとのチームに分かれてボランティアに参加しました。老人ホームにおける歌や浴衣の着付け実演、保育所での折り紙遊び、更生施設でのサンドイッチづくり、国立公園内の環境美化活動等、具体的な内容はさまざまですが、日本人らしく振舞う自分たちの活動が現地の方々にも大きく喜ばれたことに満足していた様子でした。

サンフランシスコの夏は、日本と違い肌寒いものの、天気の良い日が続く、体調を大きく崩す生徒もなく、順調にプログラムを消化することができました。最終日、シリコンバレーの頭脳とも呼ばれるスタンフォード大学のキャンパスを見学して、サンフランシスコに別れを告げました。

【英国コース】

英国コースでは、イングランドにある7箇所の大学を訪問し、うち4つの学生寮に宿泊するなど多彩な大学滞在を体験できるのが特徴です。イギリスの大学は、街中にキャンパスや学生寮が点在するシティ型と、大学の敷地内ですべて揃うキャンパス型の大きく分けて2タイプあり、今回の短期留学では両タイプの大学を訪問しました。参加した塾生は、現地学生やスタッフとの交流を積極的に図ったほか、各大学では、キャンパスツアーやUK留学について詳しい説明が用意されており、留学までの道のりについて理解を深めることができました。

最初に訪問したのは、カンタベリー・クライストチャーチ大学です。同大学は、英国国教会の総本山カンタベリー大聖堂があることで知られている、カンタベリーの街中に、学生寮・キャンパス・図書館などが点在する典型的なシティ型の大学です。また、プログラムの一環で、カンタベリー大聖堂の晩禱にも列席しましたが、厳かな雰囲気で行われた晩禱が終わった後の皆の表情は、より一層引き締まったものとなりました。

その後は、同じケント州にあるセント大学とUCA芸術大学を訪問しました。セント大学は、キャンパス型の総合大学であり、125カ国以上の国籍の学生が学ぶ国際的な大学です。小高い丘の上に建つキャンパスからカンタベリーの街が一望できたほか、設備が充実した図書館や運動施設などに皆感動していました。また、UCA芸術大学は、アニメーション、建築、ファッション、フィルム映像など様々なアートが学べ、150年以上の歴史を持つ伝統校で、学生の作品にも触れることができました。

次に訪問したのは、19世紀に毛織物業を中心に発展した街リーズにある国際色豊かなリーズ大学です。同大学では、イギリスの伝統的なヘアウッドハウス（大邸宅）の歴史や生活様式等の講義と見学、さらには英国式の美しい庭園や室内に飾られる装飾品・絵画の数々を見学し、塾生は皆感銘を受けたようでした。このほか19世紀の作家シャーロット・ブロンテやその作品「ジェイン・エア」の講義を受けました。実際にブロンテ姉妹が生活していたハワーズの町やミュージアムも訪問し、当時の社会制度や習慣についてより理解が深まったようでした。

さらには、学園都市として名高いケンブリッジで大学見学をした後、イングランド北西部のノーリッチにあり広大な敷地を持つキャンパス型のイーストアングリア大学を訪問しました。同大学では、心理学、法律、グラフィック、プログラミング、細胞研究など多岐にわたるアカデミックな授業が用意されており、塾生の興味関心に応じて講義を選択し受講することができました。

最後の滞在先は首都ロンドンにあるリー・ジェンツカレッジです。ここでは、イギリスで活躍する日本人ジャーナリスト・マクギネス真美氏と建築家・山崎一也氏から、渡英経験や現在の仕事について講演していただきました。留学に向けた励ましやアドバイスの言葉も頂き、留学の実現に向けいよいよ具体的なイメージを持つ塾生も多くいた様子でした。短期留学の最終日には、グループで計画したロンドン市内研修を無事終え、帰国の途に就きました。

続きますが、今回の経験をきっかけとして近い将来ひとりでも多くの塾生が留学の道を選び、さらに就職後も海外を舞台に活躍する大阪発のグローバル人材の先駆者として、大阪の活力向上に貢献されることを願ってやみません。

★大阪府メールマガジン情報★ 『GEO (Global E-net Osaka) 』
大阪で開催されるイベント・大阪の名所・大阪に関する豆知識等を紹介するメールマガジンです！
⇒ <http://www.pref.osaka.jp/kokusai/geo/index.html>

★その他の募集・お知らせ★

※イベントカレンダー：国際交流に関するイベント情報を紹介しています。

⇒ <http://www.ofix.or.jp/cgi/calender.cgi>

※イベントカレンダーへの情報提供をお待ちしています。

⇒ <http://www.ofix.or.jp/cgi/event.cgi>

※国際理解学習の授業（小中高）に国際交流員や留学生等を派遣します。

⇒ <http://www.ofix.or.jp/jigyuu/index2.html>

※OFIXボランティアの登録制度のご紹介

⇒ http://www.ofix.or.jp/boran/index3_1.html

※OFIX賛助会員の募集及びご寄付のお願い。

⇒ http://www.ofix.or.jp/ofix/index4_1.html

≫≫ OFIXニュースについてのご意見、ご感想はこちら
⇒ info@ofix.or.jp

≫≫ 大阪国際クラブの会員の皆様からの海外情報（レポート）はこちら
⇒ clubnews@ofix.or.jp

≫≫ 配信中止、配信先変更はこちら
⇒ <http://www.ofix.or.jp/mail/index.html#japanese>

≫≫ 「OFIXニュース」印刷版はこちら ※写真入りで内容も詳細に。
⇒ http://www.ofix.or.jp/mail/backnumber/mail_japanese_no50.pdf

≫≫ バックナンバー
⇒ <http://www.ofix.or.jp/mail/backnumber.html#japanese>

☆☆
発行：(公財)大阪府国際交流財団 (OFIX)
〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-5 マイドームおおさか5階
TEL 06 (6966) 2400 FAX 06 (6966) 2401
☆☆